

動 検 時 報



Vol.57-3 2024.06



○ What's New !

表紙は動物検疫所の敷地内で見頃を迎えた梅雨を彩るあじさいです。

大きな花びらのように見える部分はガクが発達した装飾花で、中央にある小さなつぼみのような部分が真花です。そんな隠れ上手なあじさいの中にクンくんが隠れています。何匹隠れているかわかりますか？

(㊦㊧ : ㊨㊩)

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 動検時報 第57-3号 目次 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

◎ 企画管理部長就任の挨拶	3
◎ 北海道・東北支所長就任の挨拶	4
◎ 羽田空港支所長就任の挨拶	4
◎ 門司支所長就任の挨拶	5
◎ トピックス	
・ 関西国際空港におけるゴールデンウィーク広報キャンペーン（関西空港支所）	6
・ 取締強化合同キャンペーンに参加しました（門司支所博多出張所）	6
・ 対馬厳原～韓国釜山を結ぶ航路再開に合わせ広報キャンペーンを実施しました （門司支所博多出張所）	7
・ 国際養鶏養豚総合展 2024 への参加（中部空港支所）	8
◎ 動物検疫関連情報	
・ 令和6度全国家畜衛生主任者会議の概要について（企画管理部企画調整課）	9
・ 新しく配備された防疫資材について（中部空港支所名古屋出張所）	10
◎ 所内情報	
・ 新官ハンドラーインタビュー（成田支所旅具検疫第2課 吉野 好太郎）	11
（成田支所旅具検疫第2課 岡部 亜果音）	12
・ 動植物検疫探知犬アルバート号の引退（検疫部管理指導課）	13
・ 動物検疫所の組織構成（総務部庶務課）	15
・ 人事異動（令和6年4月2日～令和6年6月1日）（総務部庶務課）	16
◎ 畜産物・動物の輸出入検疫数量実績（令和6年3月～4月）（企画管理部調査課）	17
◎ 動検通信（総務部長）	20

◎企画管理部長就任の挨拶

(企画管理部長 珠玖 知志)



4月1日付けで企画管理部長を拝命いたしました。関係者の皆様には平素より当所の業務に關しまして御理解と御協力いただいておりますことに改めて御礼申し上げます。

平成5年4月に農林水産省に採用されて以来、最初の14年間は動物検疫所での勤務でしたが、その後本省をはじめ他省庁や地方農政局も含め様々な部署での勤務を経て、この度17年振りに古巣に戻ってきました。現在この長いブランクを克服すべく改めて勉強に励んでいる毎日ですが、17年前と変わらぬ八幡橋事務所の佇まいとは対照的に、家畜衛生や畜産業を取り巻く状況に加え社会全体の情勢の変化とともに動物検疫所の業務内容も大きく変わったと感じています。

特に家畜伝染病予防法改正(令和2年7月1日施行)により携帯品や郵便物を介しての家畜の伝染病の侵入防止への対応が強化され、家畜防疫官が携帯品及び国際郵便物検査で発見した違反畜産物を廃棄できる権限を持つこととなった点は大きな改善であったと思います。当方が携帯品検査カウンターで業務をしていた頃は廃棄権限がなかったため、持ち込み不可に納得がいかない旅客を相手に「いかにして諦めてもらうか」が各防疫官の腕の見せ所でした。当時のカウンター業務は通常1人対応でしたが、現在はリスク国からの便には多くの職員を投入して対応に当たり、当初2頭でスタートした動植物検疫探知犬(以下「探知犬」という。)も今では140頭に増頭されています。違反者には警告書が交付され、違反常習者

リストができ、悪質性の高い場合は逮捕するなど状況は様変わりしています。国際郵便局の検査も当時は申し訳程度の検査数でしたが、今や探知犬まで投入して強化しており、違反畜産物の摘発量も相当なものです。

他方、生きた動物の輸入頭数は随分減少しました。特に牛については、令和5年度の輸入実績はありませんでした。本省に異動する前の部署は動物検疫課で、主任検疫官として4年間勤務しましたが、当時も現在と同様、軽種馬や豚の入検もありましたが、それに加えて初妊牛をはじめ肥育用素牛や肥育用素馬まで入っていました。これも社会状況の変化の結果です。

状況の変化に適応するために新しいことを取り入れたり、これまでのやり方を見直ししたり、現在はむしろ弊害となっているものを廃止したりすることは、変わることがない動物検疫所の担っている責務を的確に果たす上で大変重要です。そしてこの重責を担う組織の体制を維持・強化するためには、なんといっても優秀な人材を確保し育成することが何よりも大切です。

秘書課で人事担当(首席畜産専門官)として、多くの職員から率直な話を直接聞くことができたことは貴重な経験でした。そしていい人材を確保し育成するためには、良い職場環境が何よりも大切であり、すべての基礎だということを確信しました。各職場内で「私たちのチーム」という意識を常に持ち、話しやすく、助け合い、特に若い職員が積極的にチャレンジできるような明るく温かい気持ちで仕事ができる土壌をつくるのが管理職のもっとも大切な責務です。前職の東北農政局生産部(地方参事官)では東北地区の畜産を含め農政全般を担当していましたが、水稻、畑作、施設園芸・・・いずれも土づくりが最も大切だと知りました。いい土(職場環境)があれば作物(人)は立派に育ってくれるはずですよ。

最後になりますが、これまで本省や地方など様々な部署での勤務で得た経験(特に数々の失敗)をフル活用して、企画管理部長としての責務を果たしてまいりますので、皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

◎北海道・東北支所長就任の挨拶

(北海道・東北支所長 千葉 昌彦)



この度、4月1日付けで北海道・東北支所長を拝命いたしました。前任地は仙台空港、その前は那覇空港で、今回が初めて北海道の勤務となり、平成2年動物検疫所企画調整課に配属以降、全国の動物検疫所で業務に従事してきました。これまで、諸先輩方の御指導を賜り感謝申し上げます。当支所は、北海道及び東北6県を管轄しており主たる国内の畜産酪農業を北海道及び東北が支えています。当該地域の家畜衛生の一翼を担う組織として、身が引き締まる思いであります。先ずはこの動検時報をお読みになられている皆様方に御指導及び御協力をお願い申し上げる次第です。

昨年5月、新型コロナウイルス感染症が5類に移行後、全国の空海港に国際線及び国際クルーズ船が戻ってきました。人モノの動きが活発になることは、当然海外から越境性動物疾病の侵入リスクが増大します。現在、動物検疫所においては、人、予算といった限りあるリソースを再配分し、入国者への口頭質問、動植物検疫探知犬の活動等、検疫ツールを最大限活用し水際措置を実施しています。引き続き、関係機関とも連携し水際措置の強化を図って参ります。

さて、私が入所した平成2年の動検時報を紐解き、動検短信（現在の動検通信）には次のように寄稿されていました。かつてない海外旅行ブーム、5年後（平成3年）を目標に、海外旅行倍増計画（テンミリオン計画）を策定。海外旅行の高級志向で急伸しているクルーズ豪華客船が相次いで就航し、昨年はクルーズ元年と言われた。30

年以上前のことではありますが、規模は違えど、現在と同じような状況とは少し驚きでした。最後になりますが、「Boys, be ambitious」の名言を残したクラーク博士は、北海道を代表する偉人です。この名言の意味合いとは異なりますが、日本に口蹄疫やアフリカ豚熱を侵入させないんだと言う思いを新たにし、北海道・東北支所職員一丸となって水際対策を推進して参りますので、皆様からの御支援、御協力をよろしく申し上げます。

◎羽田空港支所長就任の挨拶

(羽田空港支所長 國保 直子)



この度、令和6年4月1日付けで羽田空港支所長を拝命いたしました。羽田空港支所では、①空港ターミナルにおける旅客の携帯品及び貨物地区における航空貨物の検査、②東京出張所における船舶貨物の検査及び③東京国際郵便局における郵便物の検査を行っています。羽田空港は24時間空港であり、アジア、欧州、中東、北米、オセアニアの各地域の25か国52都市から1日最大158便が到着し、入国する旅客数は本年3月に1日3万人を超えました。これは令和元年3月（コロナ禍前）の120%に当たる数字です。入国者数の増加に伴い、輸入携帯品での検査実績は前年同月の110%、違反品の摘発実績は118%へと増加しました。また、犬猫等のペットの輸出入検疫については、年間11,000頭を超える検査を実施しており（令和5年は全国第1位）、これはコロナ禍前の180%の頭数です。職員は検疫探知犬とタグを組み、家畜伝染病予防法により家畜防疫官に与えられた口頭質問や開披の権限を積極的

に活用しながら、家畜の病原体を運ぶ違反品（畜産物）の摘発及び狂犬病の侵入防止のための犬等の輸出入検疫制度に基づく輸入検疫・輸出検疫に全力を尽くしています。航空貨物についても、到着便がコロナ禍前の水準に戻ってきたことを受けて、令和5年の申請件数が前年比約130%と増加しました。高級飲食店や輸入食材店等へ出荷されるヨーロッパからの肉類や乳製品などが検査件数の大半を占めており、これらについて迅速な検査を実施しています。東京出張所は東京港と千葉港を管轄し、家畜防疫官が指定する140ヶ所の保税倉庫（指定検査場所）で検査を行っています。海外から輸入される畜産物全体の35%の検査を行うとともに、輸出畜産物についても全国の11%の検査を実施しています（令和5年速報値）。東京国際郵便局は日本向けの国際スピード郵便（EMS）の61%を取り扱っています。EMSは発送から配達までの時間が短いことが利用者のメリットであることから、食品（＝指定検疫物）が含まれる可能性も高くなります。そこで携帯品同様に動植物検疫探知犬の能力を活かしながら動物検疫の対象となる肉製品等の検査を行っており、年を追うごとに摘発件数が増加しています。その他、国際交流競走馬の輸出入検査や、動物園動物をはじめとする指定外動物の輸出検査、広報チームによる動物検疫の広報活動についても年間を通じて実施しています。

本年1月から韓国釜山のフェリーターミナル近くの野生イノシシにアフリカ豚熱の感染が確認されていることをはじめ、近隣諸国では悪性の家畜伝染病が流行しています。我が国の家畜と畜産業、人とペットの健康を守るため、職員一同力をあわせて水際検疫に取り組んでまいりますので、引き続き関係者の皆様の御理解と御協力をいただけますようお願い申し上げます。

◎門司支所長就任の挨拶

（門司支所長 林 政益）



4月1日付けで門司支所長を拝命いたしました。前職は、北海道・東北支所長として北海道及び東北6県の関係者の皆様の協力のもと水際対策に取り組ませていただきました。この場をかりて厚く御礼申し上げます。

この度、九州全県及び山口県の動物検疫業務を担うこととなり、5年ぶりに門司港湾合同庁舎に着任、風師山を背に原稿を書いております。ここ門司は、本州と九州の結節点、まさに九州の陸の玄関、「門」を「司」る地であり、また、関門海峡を挟む下関（彦島）には明治37年に大陸からの「牛疫」侵入防止のため福浦検疫場（昭和40年廃止）が設置されるなど、かねてから物流のみならず家畜衛生上の要所でもありました。今は、門司側に太刀浦検疫場、新門司検疫場を設置、家畜の検疫業務にあたっておりますが、管轄区域では前任地同様、国内有数の畜産業が展開されており、その水際を守る責務にあらためて身が引き締まる思いです。

現在、管内出張所をはじめ関係各所を巡っておりますが、時は移り、家畜の生命、人の財産を脅かす疾病は変われども、家畜の伝染性疾病の侵入防止を使命とし、この地域の畜産を守りたいとの思いは、矜持と責任感として当支所の職員に脈々と引き継がれていると感じております。その思いを具体化するため、CIQ（税関・入管・検疫）等の水際関連機関をはじめ地方農政局との協働、また自治体や関連団体、生産者の方々との円滑な連携が引き続き重要であり、水際、地域、農場の一

体感のなかで、疾病侵入防止に向けた取組を幾重にも展開していきたいところです。

特に、2018年にアジアに侵入したアフリカ豚熱は、域内にまん延し昨年末には韓国・釜山広域市に侵入、さらに本年年始には日本との定期航路のある埠頭近くの裏山の野生イノシシで確認されるなど、まさに水際まで迫ってきています。当支所としても同病の侵入リスクの高まりに応じた緊急対応を講じるため、韓国と最近隣の島である対馬（厳原（いづはら）・比田勝（ひたかつ）港）での入国者の手荷物検査や消毒等の徹底・強化に努めてきております。他方、域内の国際空港ではアフター・コロナでのインバウンドが急増し、畜産物の不正持込防止のための旅客への効果的な質問業務の推進、動植物検疫探知犬の的確な運用、さらには国際郵便物対応にも積極的に取り組んでおります。

いわゆる九州経済圏は、大陸とも近く、太古より「人」と「もの」の交流が盛んであった分、多くの脅威や危害にさらされ、それに敢然と立ち向かってきた歴史を有しております。家畜衛生に関する分野においても未来志向の多種多様の取組が確固たる防御となるよう、「防人」の如く、職員一丸となって不断に努めていく所存ですので、皆様の御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

◎トピックス

・関西国際空港におけるゴールデンウィーク広報キャンペーン

（関西空港支所）

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行してから1年が経ち、大阪・関西万博を2025年に控えた関西国際空港のターミナル施設内には万博公式イメージキャラクター「ミャクミャク」の巨大なポスターが掲げられています。今年は2023年5月8日に行われた5類感染症への引き下げから、初めてのゴールデンウィークとなり、国際線エリアは大変賑やかでした。一方で、4月下旬には韓国釜山において野生いのししのアフリカ豚熱感染25例目が確認されたこともあり、今回のゴールデンウィークに際しては、水際

検疫・広報活動にも力が入るところでした。

今回の広報キャンペーンは3F出国検査エリアにおいて、植物防疫所と合同で7日間にわたり行われました。出国検査前の旅客に対して、リーフレットを入れた広報用ティッシュ、リーフレットの配布、口頭での肉製品や果物野菜の持込みに対する注意喚起を行いました。記録的な円安の影響か、圧倒的にインバウンドの旅客が多く、中国や韓国からの旅客もさることながら、欧米諸国からの旅客についても多いように感じられました。出国エリアでは「また日本に遊びにきたい」との声も聞こえ、広報活動に力が入りました。アウトバウンドについてはコロナ禍前に及ばないものの、コロナ禍後の平常時よりは多く、出国エリアは日本語が飛び交って、賑わいをみせていました。動物検疫に対しては、「気を付けよう。」といった前向きの言葉や、「テレビで見たことがある。既に知っている。」というような嬉しい言葉を聞くシーンもありました。

また、特に人気だった広報資材としてはリーフレットが入った広報用ティッシュでした。海外旅行前の備えとしてか、多くの人に受け取ってもらうことができました。

関西国際空港は、2025年大阪・関西万博の開催地から最も近い位置にあり、海外から来場する方の多くが利用する国際空港と予想されます。出入国が激しくなる2025年に向け、より一層広報活動に力を入れてまいります。

・取締強化合同キャンペーンに参加しました

（門司支所博多出張所）

令和6年4月25日（木）にJR博多駅前広場において博多税関支署主催の取締強化合同キャンペーンが行われ、博多出張所も検疫探知犬のイメージキャラクターである「クンくん」とともに参加いたしましたので、その様子をご紹介します。

本キャンペーンは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の2019年以来、約5年ぶりに開催されました。博多税関支署が旗振り役となり、銃器・不正薬物等の取締強化期間の実施に合わせ、

当所の他、博多警察署、福岡海上保安部、福岡検疫所及び門司植物防疫所福岡支所等の関係各所が参加しました。

キャンペーン当日は幟を設置し、「クンくん」とともに、「海外から日本への肉製品の持ち込み禁止」を案内した広報用ポケットティッシュの配布や希望者との記念撮影を行い、動物検疫への協力を呼びかけました。博多駅前突然現れた着ぐるみたちに、「何のイベントが行われているのだろうか？」と興味を示し、お子様連れの方や若い世代の方々が声をかけてくださいました。



記念撮影の様子

博多駅という、多くの人を通り過ぎる公共の場所でのキャンペーンは、着ぐるみ集合による相乗効果もあり、一人でも多くの人に動物検疫制度について知ってもらおうという意味では、注目度も高く効果的だと感じました。



キャンペーン参加者との集合写真

今後もこのような広報キャンペーンに積極的に参加し、動物検疫への認知度向上を図るとともに、より一層の水際対策の徹底に努めて参ります。

・対馬厳原～韓国釜山を結ぶ航路再開に 合わせ広報キャンペーンを実施しました

(門司支所博多出張所)

対馬厳原と韓国釜山を結ぶ定期航路は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年から長らく運休していましたが、運休期間中に改修していた国際ターミナルも完成したこともあり、4月23日、約5年ぶりに航路再開となり、開港日に合わせ対馬家畜保健衛生所と合同で広報キャンペーンを実施しました。

開港日当日、マスコミ各社は朝からスタンバイし、またこの日を待ちわびていた町の方々、関係者がターミナル周辺に集まり、口々に再開を喜ぶ声が聞こえ、ちょっとした熱気を帯びていました。入国手続きを終えた旅客に向け広報ティッシュを配布し、肉製品の持ち込み禁止に理解を求めました。なお、もう一つの釜山を結ぶ定期航路の比田勝港は、一足早く昨年2月に再開しています(動検時報 Vol.57-2 2024.04)。

少し対馬を紹介します。対馬は南北82kmの細長い島であり、韓国との最短距離は僅か50km、天気の良い日は遠く釜山の街が見えるほどの距離です。みなさんご存じのとおり、韓国のアフリカ豚熱は令和元年に発生して以降、北部から中部を中心に発生していたところ、突如昨年12月、ひとまたぎに釜山の野生イノシシで発生し、更に年が明けた1月、対馬をはじめ日本各地を結ぶフェリーターミナルのすぐ裏山で野生イノシシによる発生が続発しており、動物検疫所では徹底した水際対策を実施しているところです。

韓国の方にとって対馬はとても魅力のある観光地といえます。対馬への入国者が最大であった平成30年は年間入国者約43万人、年間寄港回数は2,062便(いずれも比田勝港と厳原港を合算)。寄港数は同時期の博多港の約2倍であり、対馬の人気ぶりがうかがわれます。対馬の魅力とは何でしょうか。自然が豊か、食べ物がおいしい、また

免税品でのショッピングで来訪される方も当然います。子供から年配の方まで、また家族連れからカップル、まんべんなく様々な年代の方が来訪されます。釣りも人気であり自慢の釣り道具を抱えた方、またトレッキングスタイルの方、自転車を持ち込んでサイクリングを楽しむ方など様々です。

このように韓国の方に大人気の対馬、来訪者が気持ちよく入国できるよう、動物検疫所では「事前広報」に力を入れています。船舶会社、対馬観光物産協会、対馬市文化交流課など関係者の理解と協力が不可欠ですが、いずれの関係者も動物検疫所の危機感を理解し、非常に協力的です。比田勝港に加え厳原港も再開し、徐々にコロナ前の日常に戻つつある対馬。関係者の理解と協力を得つつ、引き続き水際対策を徹底していきます。



・国際養鶏養豚総合展2024への参加

(中部空港支所)

令和6年4月24日から26日の3日間、名古屋港にあるポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)で開催された「国際養鶏養豚総合展2024(International Poultry and Pig Show Japan 2024)」に参加しました。

国際養鶏養豚総合展は、生産、施設、機械、システム、動物用医薬品などに携わる企業・団体が一堂に会した国内唯一の養鶏・養豚に特化した展示会です。動物検疫所は平成30年に開催された第8回展示会に初めて出展し、今回は節目となる第10回展示会に参加しました。展示会の来場者

は3日間で23,298名と多くの方が来場されました。

畜産関係の総合展ということもあり、会場入り口には、エア吸引式靴底クリーナー、靴底消毒マット、手指消毒器及びエアシャワーが設置されており、感染症対策が徹底されていました。



動物検疫所は、前回(令和4年)よりさらに広いブースに動物検疫の概要、アフリカ豚熱や口蹄疫などの重要伝染病発生状況、水際検疫の強化、携帯品及び郵便物の検査についてのパネル展示や各種パンフレット、ポケットティッシュをブースに設置し、家畜伝染病予防法に基づく輸入検査に関連する情報を来場者に紹介しました。また、今回は写真を使用した本物そっくりの禁止品サンプルを新たに作成しました。その展示品に、多くの方が興味を持って立ち寄ってくださり、会話のきっかけとなりました。「海外旅行に行った際は、お土産に十分気をつけよう」とお話しされる方もいらっしゃいました。また、検疫探知犬イメージソング「クンくんの歌」や(公社)中央畜産会の「がんばる! 畜産!」などの動画も流し、動物検疫についてアピールすることができました。

ブースを訪れた来場者からは、水際防疫の内容について多様な質問があり、外国人技能実習生を受け入れている養豚農家の方からは、「引き続き肉製品の持ち込みをしないように的確に指導してほしい」「アフリカ豚熱を決して日本に侵入させないでほしい」という切実なご意見も頂きました。全国で対応している水際検疫の強化の内容について丁寧に説明し、本病を侵入させな

いため、今後も水際検疫に万全を期すとお話ししたところ、畜産農家の方から、動物検疫所に期待感を持って励ましの言葉を頂きました。今回の展示会では動植物検疫探知犬は不参加でしたが、「テレビ番組や農林水産省公式 YouTube (BUZZMAFF ばずまふ) で見えています、応援しています」とお声がけいただきました。

実際に畜産農家の方とお話をして、国内の生産者が抱く不安を直接感じたことで、我々が水際検疫を確実に行うことの重要性をあらためて実感する良い機会になりました。来場者の中には、農業高等学校の学生や一般の方も多く、幅広い層の方に広報を行うことができました。今後もこのようなイベントに積極的に参加し、動物検疫に関する周知を図っていく所存です。

最後に、本展示会への出展に御協力いただきました(公社)中央畜産会の皆様には、改めてお礼を申し上げます。



禁止品サンプル展示

◎動物検疫関連情報

・令和6年度全国家畜衛生主任者会議の概要について

(企画管理部企画調整課)

令和6年度全国家畜衛生主任者会議が4月15日に農林水産本省7階講堂において開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和2年度から4年度までの3年間はオンラインでの会議でしたが、今回は昨年度に続き対面(オンライン併用)での開催となりました。この会議は、例年、年度当初に農林水産省、都道府県の家畜衛生担当者及び関係機関が一堂に会し、家畜衛生に関する動向や今後の推進方向についての情報共有や意見交換を行う場です。

冒頭、坂本農林水産大臣より挨拶があり、高病原性鳥インフルエンザの防疫対応における関係者への謝意が示されたほか、豚熱ワクチンの適切な接種、農場内に疾病を持ち込ませないための飼養衛生管理の徹底、野生動物の豚熱・アフリカ豚熱対策等について発言がありました。

続いて動物衛生課からは、各担当補佐等より令和6年度予算の概要、今シーズンの高病原性鳥インフルエンザの発生状況・疫学調査結果、豚熱の発生状況やワクチン対策、野生イノシシにおける豚熱及びアフリカ豚熱対策等について説明がありました。その後、動物検疫所(石川所長)、農研機構動物衛生研究部門(勝田所長)、消費・安全局畜産安全管理課(星野課長)、動物医薬品検査所(嶋崎所長)、独立行政法人農林水産消費安全技術センター(嶋崎部長)、経営局保険監理官付補佐(古庄補佐)からそれぞれの所管事項等について説明がありました。

石川所長からは、アフリカ豚熱や口蹄疫等の我が国への侵入を防ぐための水際強化対策、輸入禁止品の摘発状況及び国内防疫支援対応等について説明を行い、特に、都道府県と緊密に連携して取り組むことの重要性について強調して発言をしました。

アジア近隣諸国ではアフリカ豚熱がまん延しており、昨年12月には韓国釜山広域市でも野生イノシシでのアフリカ豚熱の感染が確認されるなど、本疾病の我が国への侵入リスクは極めて高

い状態が続いています。動物検疫所としては、釜山からの定期航路のある港における検疫を強化しているところです。引き続き、都道府県、関係省庁及び関係業界等と密に連携し、水際対応を強化してまいりますので御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本会議の資料については農林水産省のウェブサイトで公表されていますので、こちらを参照していただくようお願いします。

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/shuninsha/240405.html>

・新しく配備された防疫資材について

(中部空港支所名古屋出張所)

アフリカ豚熱は世界各地で感染が拡大し、東アジア地域で発生が継続しており、我が国に万が一侵入した場合は、甚大な影響が見込まれています。

アフリカ豚熱対策としては、ヨーロッパや韓国での発生状況からも、野生いのししへの対応が課題となり、アフリカ豚熱を国内で確認した場合には、初動対応を的確かつ迅速に行うことが非常に重要となります。

現在、国内では野生いのしし対策としてサーベイランスの実施、捕獲の強化、感染防止のための周知等が強化されています。また、アフリカ豚熱の国内侵入に備えた初動対応の強化として、野生いのししの防疫作業に必要な、家畜の防疫作業では使用しない特殊な資材の購入、備蓄が令和5年度補正予算において措置されました。

今回、動物検疫所が備蓄する防疫資材としては初めてとなる電気柵等の特殊な資材が当所野跡検疫場に納品され、備蓄していますので紹介します。

1 電気柵

野生いのししの行動範囲の制限や死体発見地点に設置して野生動物の侵入・掘り返しを防ぐために用いる電気柵です。以下の3種類があります。



(1) 森林敷設型電気柵キット

- ・アフリカ豚熱防疫対応用スーパーフォレストシステム5段1,000mセット(2段2,000m)
『行動範囲の制限用』
野生いのししの行動範囲を制限するために用いる

(2) 一体型電気柵キット

- ・アフリカ豚熱防疫対応用スマートフェンス100mセット
『死体防護用』(4段100m)
支柱、通電ワイヤー、繰出器が一体化しており専門知識を必要とせず、簡便・迅速に設置できる。

(3) 簡易型電気柵キット

- ・アフリカ豚熱防疫対応用電気柵キット15mセット
『死体防護用』(4段15m)

2 貸付可能な野生いのしし防疫資材

以下の7種類を備蓄しています。

- ①納体袋(200枚)
- ②生分解性シート(24セット(120枚))
- ③ソリ(4個)
- ④担架(4個)
- ⑤大型樹脂製袋(2箱(100枚))
- ⑥背負子(6個)
- ⑦滑り止めシューズカバー(1ケース(50足))



背負子

これらの資材の貸し付けについては、「家畜伝染病予防法第49条に基づく防疫資材の貸付要領の新設について(野生いのししにおけるアフリカ豚熱防疫資材)(令和6年3月29日付け5消安第7814号)」を参照ください。今後は他の防疫資材と同様に都道府県からの要請があれば要領に基づいて貸し付けることとなります。

先般、農林水産本省において、野生いのししでの初動対応(通報、検査、死体の探索、処分方法等)について取りまとめた「野生いのししにおけるアフリカ豚熱の浸潤状況の的確な把握と感染拡大防止のための基本方針(令和6年3月28日付け5消安第7804号)」が公表されたところです。当所におきましても、引き続き要請に基づく防疫資材の迅速な搬出を行うとともに、その保管管理を行ってまいります。

◎所内情報

春は出会いと別れの季節です。動物検疫所においても出会いと別れがありました。この春、新しくデビューした2頭と引退した1頭の動植物検疫探知犬(以下「探知犬」という。)について紹介します。

・新官ハンドラーインタビュー

(成田支所旅具検疫第2課 吉野 好太郎)

●ハンドラーになった経緯を教えてください

動物検疫所の職員として携帯品検査業務に携わり、身近で探知犬の活躍を目にする中で、犬の臭覚と人間の技術を組み合わせて行う探知活動に大変興味を持ちました。その後、動物取扱責任者の資格を有していたことと実務経験を踏まえ、探知犬の飼養管理をサポートさせていただくこととなり、実際に探知犬に接していく中で、ハンドラーへの関心がさらに高まっていきました。機会を得て、3年間ほど探知犬ジャグ号のハンドリングを経験させていただき、ベテラン探知犬のジャグ号との活動であっても、思うようにいかない日々を経験しましたが、ジャグ号との絆を深め、水際防疫に貢献できる仕事に、大きなやりがいを感じました。このような貴重な経験をさせていただき、自らのスキルを向上させる必要性を感じたことから、ハンドラーに関する知識と技術を改めて学び直したいと考え、新規デビュー探知犬のハンドラー募集に応募しました。

●パートナー犬を紹介してください。

今回新しくペアとなる犬の名前はアサヒです。動物愛護センターで保護されていた雑種の男の子で、動物検疫所内で保護犬から育成された初めての探知犬となります。年齢は3歳ですが、年齢よりも幼い雰囲気を持つ無邪気で活発な中型犬です。新しい場所で見せる積極的な行動力、意欲的に匂いを嗅ぎ分ける探知能力が高く評価され、雑種ではありますが探知犬として導入されました。ビーグルやラブラドル・レトリバーと異なり、ピンと立った大きな耳を持ち、マロ眉と調和した可愛らしい印象の顔立ちは、威圧感を与えることなく、活動中も旅客の皆様から「かわいい犬だね!」と温かい声をかけていただいています。

●現在の業務内容と苦労話を教えてください。

アサヒ号は、令和6年3月にハナ号とともに成田支所に配置されました。先に成田空港で活躍していた先輩探知犬達と協力しながら、海外から到着された方の手荷物を一つ一つ丁寧に嗅ぎ、水際防疫の強化に貢献しています。

苦労している点は、入国検査場内でアサヒ号の持っている探知能力を最大限に発揮させることです。訓練施設でのアサヒ号は、ハンドラーと息を合わせて次々にターゲットを発見していました。ところが、空港での実働を開始したアサヒ号は、成田空港の広い検査場内で毎日変化する大勢の旅客の流れや大きな音、床のニオイなど、初めての環境に好奇心が高まり、ハンドラーへの意識が薄れ、互いの息が合わなくなりました。好奇心が高まったアサヒ号に私が動揺してしまい、アサヒ号に振り回されてしまったことが原因の一つと考えられ、もう一度落ち着いてアサヒ号と一緒に基本的な訓練に立ち返りました。その結果、私は徐々にアサヒ号のコントロールに自信が持てるようになりました。また、探知活動開始前にお互い向き合いしっかりとアイコンタクトをとることで、アサヒ号も落ち着きを見せるようになりました。さらに、私自身もアサヒ号に負けないう、常に「明るく元気なハンドリング」を心がけることで、アサヒ号はハンドラーの存在を着実に意識するようになりました。今後も様々な経験を積み重ね、ハンドラーとしてアサヒ号の探知能力を十分に発揮できるよう、最善を尽くしてまいります。

●最後に一言（ハンドラーを目指す方に）

犬との信頼関係を構築することやハンドリング技術を習得することは、想像以上に努力と忍耐が必要で、容易なことではありません。それだけに、探知犬とハンドラーが一体となり、成果が得られた瞬間は、何ものにも代えがたい素晴らしいものがあります。身近にいるハンドラーから詳しい話を聞いて、探知業務に興味を持っていただけることを願っています。



吉野ハンドラーとアサヒ号

(成田支所旅具検査第2課 岡部 亜果音)

●ハンドラーになった経緯を教えてください

小学生の頃から動物と働く仕事に興味がありました。大学のパンフレットで動物検疫所の業務を知り、テレビや大学3年次に参加した動物検疫所のインターンシップで探知犬の存在を知りました。入省後、様々な業務に携わる中で、探知活動を含めたハンドラー業務に興味を持ちました。自分に務まるのか不安もありましたが、当時所属していた課の先輩ハンドラーが熱心に相談に乗ってくださり、「挑戦してみたい」という自分の素直な思いを信じて、入省3年目でハンドラーの募集に応募しました。

●パートナー犬を紹介してください。

名前はハナ。動物検疫所内で育成された探知犬としては初めての大型犬で、品種はラブラドル・レトリバー。最近2歳になったばかりの元気いっぱいな女の子で、今でも時々子犬のような表情を見せます。笑顔がチャームポイントで、いつも笑顔の花をいっぱい咲かせながら探知をしています。そのため、動物検疫所の職員はもちろんのこと、他機関の職員にも、笑顔で尻尾を振りながら探知する姿を温かく見守っていただいています。

●現在の業務内容と苦労話を教えてください。

現在の探知犬の活躍の場所は、入国検査場のみならず、動物検疫の重要性を多くの方に知っていただくための広報イベントでも、重要な役割を果たしています。実際にデビューして間もなくの3月末、群馬県伊勢崎市のショッピングモールで探知活動のデモンストレーションを行いました。有り難いことに、ステージを囲むように多くの人々に集まっていただき、初め私はとても緊張していました。しかし、ハナ号は待機中のクレートの中でもいつもどおり熟睡していて、ステージに出ても落ち着いていました。そんなハナ号に助けをもらい、普段どおりの探知活動ができ、初めて参加したイベントは大成功に終わりました。

通常業務で苦労していることは、成田空港の特徴でもある多数のターミナルに慣れることです。どのターミナルでもハナ号が楽しめるようハンドリングする事を意識していますが、ターミナルごとに異なる旅客の流れに、初めは私が戸惑ってしまい、思うようなハンドリングができない日々が続きました。ただ、1つ1つ丁寧に探知する事を心がけ、客観的に自分の動きを振り返る事で、少しずつ気持ちに余裕ができ、楽しくハンドリングできる日が増えてきました。ハナ号が楽しそうに探知をしている時やターゲットを見つけた時、私は心から嬉しいです。(初めてターゲットに綺麗に座ってくれた時の感動を私は今でもはっきりと覚えています。)

これからも、ハナ号とともに日々精進していきます！

●最後に一言（ハンドラーを目指す方に）

ハンドラーの仕事は、探知犬チームのメンバー、開披検査を行う家畜防疫官や植物防疫官等、周りの職員の協力がなければできません。そのため、協調性と感謝の気持ちを持つことがとても大切です。次に、体力もそれと同じくらい重要です。私自身、体力には自信があった方ですが、大型犬を扱うことは、想像以上に体力が必要でした。また、夏の暑さや冬の寒さといった気温の変化に加え、その日のハナ号の調子を見極め、その時々周囲の状況に合わせて動くことは簡単ではありません。それでも、ターゲットを見つけた時の喜びは非常に大きく、やりがいを強く感じます。是非、皆さんの周りのハンドラーに色々な話を聞いて、ハンドラー業務のイメージを膨らませ

てみてください。



岡部ハンドラーとハナ号

・動植物検疫探知犬アルバート号の引退

(検疫部管理指導課)

2024年3月、探知犬のアルバート号が長年の役目を終えました。

筆者は、アルバート号のハンドラーを務め、今は、引退したアルバート号の飼い主として生活を共にしています。執筆の機会をいただきましたので、アルバート号のこれまでを振り返りつつ、今の様子などを紹介します。



引退式

アルバート号は、2015年にアメリカ合衆国から探知犬として来日しました。探知活動への意欲がとて旺盛で、適応力が高く、いろいろな場面で力を発揮してくれる頼もしい相棒でした。また、数々のイベントに参加して、探知のデモンストレーションを実施したり、農林水産省のYoutubeチャンネルであるBUZZMAFFに出演して、動物検疫所の広報にも貢献してくれました。

アルバート号は、おもちゃで遊ぶことや同じ犬舎にいる仲間の探知犬と一緒に遊ぶことをあまりせず、運動場などに放しても、一人日向でのほほんとしたり、あちこちにおいを黙々と調べているような犬でした。そんなアルバート号でも、探知活動になると嬉しそうに尻尾をぶんぶん回しながら荷物を嗅ぎまわり、対象物を見つけるとフンフン言いながら懸命にアピールしていました。そして、探知活動が終わって待機室に戻るタイミングになると、床にへばりついて「まだやりたい！」と駄々をこね、よく周りのスタッフや旅客から笑われていました。それだけ探知活動が大好きだったのだと思うと、引退させることは少し寂しい気もしますが、もう12歳のおじいちゃんであり、若い頃に比べると動きがゆっくりになってきたため、新たな生活を送ることになりました。

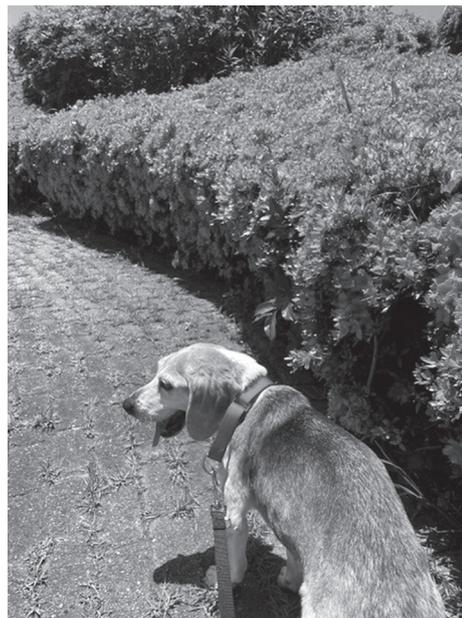


寝ているアルバート

引退してからのアルバート号は、寝てばかりいます。引退のお祝いに職員の皆様からいただいたベッドがお気に入り、食事が終わるとベッドでゴロリ、散歩から帰るとベッドでゴロリといった調子です。犬連れキャンプをしたり、ドッグランと一緒に遊ぶことに憧れを抱きつつ、年齢的にも性格的にもアルバート号は嫌がりそうなので、アルバート号への最大のサービスは休日に自然の多い公園に連れて行くことです。車から降りるなり、においチェックを開始し、その後も2～3歩進んではにおいチェックを繰り返すので、50メートルほどの距離を進むだけでも大変な時間がかかります。アルバート号にとって散歩は単に運動するだけではなく、情報収集のための重要な時間なのです。引退する前は、

「次の仕事があるから早くして！」と思いながら散歩をしていましたが、今は思う存分においを嗅がせてあげられます。

アルバート号は、筆者にとってはずっと仕事のパートナーだったため、ペットとしてどのように関われば良いのか分かりませんでした。アルバート号が自分らしく過ごせればそれが一番幸せであり、探知犬でもペットでもなく、「アルバート号」として接していきたいと思います。アルバート号、今まで動物検疫所の一員として私たちの業務を支えてくれてありがとう。



お散歩中のアルバート

・動検検疫所の組織構成

(令和6年5月1日現在)

所長	石川 清康
├─ 総務部長	中村 達也
├─ 庶務課長	成田 圭作
└─ 会計課長	玉置 敦
├─ 調整指導官	中尾 哲也
├─ 統括検疫管理官	中澤 睦美
├─ 感染症対策専門官	遠藤 明仁
├─ 企画管理部長	珠玖 知志
├─ 企画調整課長	牧田 利和子
├─ 調査課長	土屋 直樹
└─ 危機管理課長	吉田 英二
├─ 検疫部長	増田 真人
├─ 管理指導課長	栗栖 輝光
├─ 動物検疫課長	草刈 恵
└─ 畜産物検疫課長	上地 幸子
├─ 精密検査部長	大友 浩幸
├─ 微生物検査課長	尾坂 優之
├─ 海外病検査課長	福原 久江
└─ 病理・理化学検査課長	福田 史乃
├─ 危険度分析課長	竹川 正興
├─ 川崎出張所長	和田 さち子
├─ 新潟空港出張所長	森 一郎
└─ 静岡出張所長	藤澤 景子
├─ 北海道・東北支所	
所長	千葉 昌彦
├─ 庶務課長	佐々木 妥之
├─ 調整指導官	柳澤 成江
├─ 検疫課長	佐藤 隆一
├─ 函館空港出張所長	橋本 行彦
└─ 仙台空港出張所長	横山 理恵子
├─ 成田支所	
所長	町田 香
├─ 次長	根城 博一
├─ 庶務課長	三上 康史
├─ 調整指導官	青野 幹広
├─ 統括検疫管理官	加藤 政治
├─ 旅具検疫第1課長	梶本 綾子
├─ 旅具検疫第2課長	粕谷 和史
├─ 旅具検疫第3課長	大川 祐人
└─ 動物検疫第1課長	石塚 久義

├─ 動物検疫第2課長	久保 顕志
└─ 貨物検査課長	鈴木 剛史
├─ 羽田空港支所	
所長	國保 直子
├─ 次長	新堀 均
├─ 庶務課長	刈込 高德
├─ 調整指導官	鎌川 明美
├─ 統括検疫管理官	桐原 志保
├─ 検疫第1課長	中原 一馬
├─ 検疫第2課長	杉浦 千尋
└─ 東京出張所長	貞末 竜伺
├─ 中部空港支所	
所長	米川 和宏
├─ 次長	瀬戸 秀佳
├─ 庶務課長	宮舘 篤史
├─ 調整指導官	江崎 由妃子
├─ 統括検疫管理官	夏目 和良
├─ 検疫課長	小平 明宏
├─ 小松出張所長	若菜 俊敦
└─ 名古屋出張所長	平賀 英子
├─ 関西空港支所	
所長	酒井 一彰
├─ 次長	湊上 佐知子
├─ 庶務課長	檜原 正勝
├─ 調整指導官	澤田 奈津子
├─ 統括検疫管理官	勢古 貴九秀
├─ 検疫第1課長	酒井 輝明
├─ 検疫第2課長	笹田 陽子
└─ 検疫第3課長	百瀬 智子
├─ 神戸支所	
所長	小岩井 正博
├─ 次長	河本 俊博
├─ 庶務課長	中村 毅
├─ 調整指導官	黒田 正爾
├─ 統括検疫管理官	岩中 麻里
├─ 検疫課長	森田 悦至
├─ 大阪出張所長	福富 武
├─ 米子空港出張所長	丸川 義文
├─ 岡山空港出張所長	中島 一雄
├─ 広島空港出張所長	水出 元
└─ 四国出張所長	田澤 瑞帆
├─ 門司支所	
所長	林 政益
├─ 次長	小林 朋存

— 庶務課長	石井 正洋
— 調整指導官	福田 雅史
— 統括検疫管理官	金田 幸樹
— 検疫第1課長	阿久澤 義徳
— 検疫第2課長	田中 耕司
— 検疫第3課長	永友 孝昌
— 博多出張所長	田上 勝則
— 福岡空港出張所長	吉岡 成美
— 長崎空港出張所長	山田 淳志
— 鹿児島空港出張所長	山口 賢郎
— 沖縄支所	
所長	浅岡 正弘
— 庶務課長	菊地 和広
— 調整指導官	佐藤 一之
— 検疫課長	百井 秀樹
— 那覇空港出張所長	鈴木 章則

・人事異動

(令和6年4月2日～令和6年6月1日)

(総務部庶務課)

※出張所長・課長級以上の異動、動検外異動、新規採用(期間を空けず採用された任期付職員は除く)、退職に係る異動を掲載

(令和6年4月30日)

山口 由 退職(羽田空港支所検疫第1課)

長谷川浩昭 任期満了(成田支所旅具検疫第1課(任期付採用))

寺井 克子 任期満了(神戸支所検疫課(任期付採用))

太田 麻美 独立行政法人家畜改良センター新冠牧場衛生課生産衛生係長(中部空港支所検疫課)

(令和6年5月1日)

吉永 真二 成田支所旅具検疫第2課(任期付採用)

谷 泉乃 神戸支所大阪出張所(任期付採用)

(令和6年5月15日)

白川ひとみ 任期満了(門司支所博多出張所(臨時的任用))

(令和6年5月16日)

白川ひとみ 門司支所博多出張所(任期付採用)

(令和6年5月27日)

大野果菜子 任期満了(成田支所旅具検疫第1課)

(令和6年5月28日)

大野果菜子 成田支所旅具検疫第1課(任期付採用)

◎畜産物・動物の輸出入検疫数量実績（令和6年3月～4月）

●輸入畜産物（前年同月比）

3月分全体の輸入量は前年同月比100.0%と横ばいで、4月分全体の輸入量は前年同月比105.5%とやや増加しました。

●輸出畜産物（前年同月比）

3月分全体の輸出量は前年同月比92.7%とかなりの程度減少、4月分全体の輸出量は前年同月比106.1%とやや増加しました。

（単位：KG、アンプル、個）

品目名		輸入		輸出		
		3月	4月	3月	4月	
骨類	骨	1,441,975	1,235,579	6,000	3,100	
	碎骨	1,196,981	964,983	—	—	
	蹄角	2,283	7,067	—	—	
	骨髄	42,300	80,364	—	—	
	蹄角粉	82,000	18,200	—	—	
	その他の骨	—	1	—	—	
	計	2,765,538	2,306,194	6,000	3,100	
肉類	牛肉	冷蔵	23,955,312	21,217,165	423,784	474,899
		冷凍	34,946,425	32,164,531	286,075	308,786
		その他	8,392	11,527	—	—
		加熱処理	24,375	21,391	—	—
	豚肉	冷蔵	34,417,883	34,046,374	942	1,002
		冷凍	66,306,095	70,751,616	100,648	144,035
		その他	3,240	14,084	—	—
		加熱処理	618,572	708,162	—	—
	めん羊肉	2,505,856	2,705,015	—	—	
	山羊肉	67,274	89,476	—	—	
	鹿肉	10	—	34	—	
	その他の偶蹄類肉	—	—	—	—	
	加熱処理その他の偶蹄類肉	—	—	—	—	
	ハム	198,092	308,639	53	—	
	加熱処理ハム	17,348	25,155	—	—	
	ソーセージ	1,062,944	1,543,836	77	730	
	加熱処理ソーセージ	672,709	1,132,500	—	—	
	ベーコン	102,807	43,065	82	—	
	加熱処理ベーコン	244	1	—	—	
	馬肉	306,663	320,339	—	—	
	うさぎ肉	380	13,194	—	—	
	犬肉	—	—	—	—	
	家きん肉	54,895,337	54,468,779	437,894	319,912	
	家きん加熱処理肉	35,699,057	40,325,601	—	—	
	非加熱 その他の肉	牛	803,690	592,852	16	—
		豚	140,800	151,797	53	—
		家きん	197,311	133,087	38,802	36,305
その他		125,290	45,390	10,900	30,876	
加熱処理 その他の肉	牛	109,327	138,549	—	—	
	豚	2,750,061	3,139,698	—	—	
	家きん	2,785,583	3,501,486	—	—	
	その他	313,013	446,163	—	—	
計	263,034,087	268,059,474	1,299,360	1,316,545		
臓器類	牛臓器	126,408	72,660	39	191	
	豚臓器	125,120	96,937	2,200	500	
	その他の偶蹄類臓器	16,240	3,921	—	—	
	加熱処理牛の臓器	—	—	—	—	
	加熱処理豚の臓器	—	—	—	—	

品目名	輸入		輸出		
	3月	4月	3月	4月	
臓器類	加熱処理その他の偶蹄類臓器	—	—	—	—
	偶蹄類以外の臓器	34,179	73,572	1,168	257
	消化管等	3,431,583	2,874,204	3,067	3,209
	加熱処理消化管等	—	—	—	—
	ケーシング	237,912	340,964	—	—
	脂肪	2,876,248	3,344,980	—	—
	非加熱その他の臓器	605	71	—	—
	加熱処理その他の臓器	—	—	—	—
	加熱処理家きん臓器	179,509	270,228	—	—
	加熱処理その他の家きん臓器	8,436	9,684	—	—
	計	7,036,240	7,087,221	6,474	4,158
卵類	殻付卵	94,401	70,800	1,744,359	2,123,614
	液卵	686,550	447,008	—	3,130
	その他の卵	2	—	10,101	10,452
	計	780,952	517,809	1,754,459	2,137,196
皮類	牛皮	2,861,202	2,375,995	1,393,398	1,480,408
	豚皮	81,093	62,399	5,249,947	5,354,189
	めん羊皮	—	14,607	—	—
	山羊皮	135	230	—	—
	鹿皮	2,515	42,761	—	—
	その他の偶蹄類の皮	—	—	—	—
	馬皮	26,664	24,002	—	—
	うさぎ皮	35,280	36,960	—	—
	犬皮	—	—	—	—
	その他の皮	—	—	—	—
計	3,006,889	2,556,954	6,643,345	6,834,597	
毛類	牛毛	—	—	—	—
	豚毛	900	150	—	—
	羊毛	—	—	—	—
	山羊毛	3,101	16,035	—	502
	鹿毛	—	—	—	—
	その他の偶蹄類の毛	—	6,375	—	—
	馬毛	1,123	1,500	—	—
	うさぎ毛	1,040	600	—	—
	羽毛	62,328	80,110	55,596	34,175
	犬毛	—	—	—	—
	その他の毛	177	—	1,352	592
計	68,668	104,770	56,948	35,269	
乳製品類	チーズ	23,861,817	19,927,007	409	22,876
	バター	945,480	1,339,903	64	9
	偶蹄類動物の飼料用乳製品	6,471,697	3,535,879	—	—
	その他の乳製品	6,233,423	5,075,914	143,935	126,207
	計	37,512,418	29,878,703	144,408	149,093
ミール類	血粉	436,906	197,794	—	—
	肉粉	27,847	11,182	—	—
	肉骨粉	—	—	—	—
	皮粉・羽毛粉	—	—	—	—
	計	464,752	208,976	0	0
その他	精液（アンプル）	104,028	54,963	—	—
	受精卵（個）	17	176	—	—
	ふん・尿	8	4	—	—
	計	8	4	—	—
わら類	穀物のわら	17,082,660	19,418,670	—	—
	飼料用の乾草	—	—	—	—
	その他	75,580	108,280	—	—
	計	17,158,240	19,526,950	0	0
総計	331,827,785	330,247,051	9,910,994	10,479,957	

※ 解放重量ベースの速報値

(単位：頭、羽、個、群)

動物名	用途	輸入		輸出	
		3月	4月	3月	4月
牛	乳用繁殖用	—	—	—	—
	肉用繁殖用	—	—	—	—
	肥育用	—	—	—	—
	と畜場直行用	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—
豚	繁殖用	—	191	—	—
	その他	—	—	—	—
めん羊		—	—	—	—
山羊		—	—	—	—
その他の偶蹄類		—	—	—	—
馬	繁殖用	3	—	—	2
	乗用	15	7	—	1
	競走用	16	59	16	9
	肥育用	479	296	—	—
	と畜場直行用	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—
その他の馬科		—	—	—	—
うさぎ		36	36	30	12
初生ひな（鶏）		—	34,875	—	—
初生ひな（その他）		—	—	—	—
種卵（個）		—	—	—	—
蜜蜂（群）		546	—	—	—
指定検疫物以外の動物				7,796	8,258
犬		888	661	685	753
猫		558	416	415	423
あらいぐま		—	—	—	—
きつね		—	—	—	—
スカンク		—	—	—	—
サル		768	768		

※ 解放頭羽数ベースの速報値



農林水産省公式 YouTube チャンネル「BUZZMAFF」に動物検疫所が登場しました。今回は、飛びだせ獣医！ブイブイ調査隊さんとコラボしています。

面白く、わかりやすく動物検疫について紹介いただいています。

なかなか見ることができない係留施設の中や検査室も見ることができますよ！

◎動検通信（総務部長）

昨年4月に着任して早1年が経ちました。この原稿を書いているのは本所敷地内の桜もすっかり葉桜になったGW明け頃ですが、この号が出た今現在は梅雨入り後でしょうか？

さて、総務部には、服務・倫理、勤務時間管理、健康・安全、職員の採用及び人事評価など様々な事務を実施する庶務課と、契約、支払い及び物品や国有財産の管理などのお金の管理に関する事務を実施する会計課があり、それぞれが加えて各支所庶務課（各支所には庶務課があり“ミニ総務部”的機能を有しています。）や農林水産省本省等からの依頼等に応じ、とりまとめ等を行っています。

昨年5月には新型コロナウイルス感染症の位置づけが変わり、円安の影響も相まって今では外国からの訪日入国者数は新型コロナ前と変わらない、むしろそれ以上の状況となってきました。そして、依然として家畜伝染病、特にアフリカ豚熱の侵入リスクが高い現状においては、引き続き、我が国の畜水産業を守るための水際検疫業務を的確に実施することが求められています。この業務実施を支える総務部及び各支所庶務課の事務職員は、引き続き適正かつ堅実な事務処理を行っていく必要がありますので、今後とも本誌をご覧の皆様のご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

ところで、少し話はズレますが、昨年春に着任してさほど経たない頃に、当所の検疫探知犬ハンドラーさんに「当方の飼い犬（当時3才）が夜の就寝時には決まって娘の部屋のベッドで寝る癖が付いてしまった」ことを話したところ「失敗しましたね♪」と言われたことがありました。このことを、今年の春に新犬を我が家へ迎え入れて初めて多頭飼いを始めるに際して思い出したのですが、2頭目の0才犬については今のところ順調に躡けることができているかな（？）と日々勉強させられています。（当たり前ですが、先住犬がとてもお利口さんに思えます。）

最新のトピックスは
こちらへ➡

動物検疫所のホームページ <https://www.maff.go.jp/aqs/>
農林水産省のホームページ <https://www.maff.go.jp/>
WOAHのホームページ <https://www.woah.org/en/home/>

動検時報はこちらにも掲載しています。



編集・発行 農林水産省
動物検疫所
横浜市磯子区原町 11 - 1
(045) - 751 - 5921 (代表)